

コシヒカリ生育情報 第6号

2回目穂肥は必ず施用し、収量・品質を確保！

【7月20日生育状況】（管内3か所平均、平均田植日5/17）

草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
82	109%(やや長い)	505	123%(多い)	12.2	±0.3(並み)	34.5	+0.0(並み)

- ・草丈はやや長く、葉色は並みだが前回から大きく低下した。（7月10日から4.4ポイント低下）
- ・高温で推移したため、生育が早まり、出穂期は平年より3日早まると予想される。
- ・7月20日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多くなる予想。平均気温は高い確率70%で期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。（新潟地方気象台）

【今後の管理のポイント】

1 2回目穂肥は下位節間の伸長に影響しない。必ず施用！

田植日	出穂期予想	穂肥時期のめやす（カッコ内は出穂前日数）		2回目穂肥窒素成分量
		2回目	3回目*	
5/20	8/2	7/23 (10)	7/31 (3)	1~1.5 kg/10a

※3回目穂肥は、出穂期後の高温が予想される場合に施用を検討する。

- (1) 1回目穂肥を施用しなかった場合でも、2回目穂肥は出穂期10日前に必ず施用する。
（ただし、穂肥を未施用で、葉色が急激に低下している場合は、直ちに1回目穂肥を施用する。）
- (2) 1回目穂肥を遅らせた場合は、1回目穂肥の7日後をめやすに2回目を施用する。

2 全量基肥施肥体系の穂肥対応

高温で推移したため、肥料成分の溶出が早まっていると推測され、後期栄養不足が心配される。葉色が薄い場合は、出穂期10日前までに窒素成分で1kg/10aを施用する。

3 飽水管理の徹底

飽水管理により、根の活力を維持するとともに、地温の上昇を抑える。また、穂肥成分の溶出を図る。

4 病虫害防除の徹底

- (1) 斑点米カメムシ類
 - ・畦畔・農道、及び水田内の除草を徹底する。
 - ・薬剤防除は各薬剤に応じた適期に行う。水面施用剤は、水深3cm程度の浅水条件で、できるだけ散布後好天が予想される日に散布する。
- (2) いもち病
 - ・他の品種で葉いもちの発生が見られるため、いもち病の早期発見に努める。

農作業中の熱中症に注意しましょう。こまめな水分と塩分の補給や休憩が大切です。